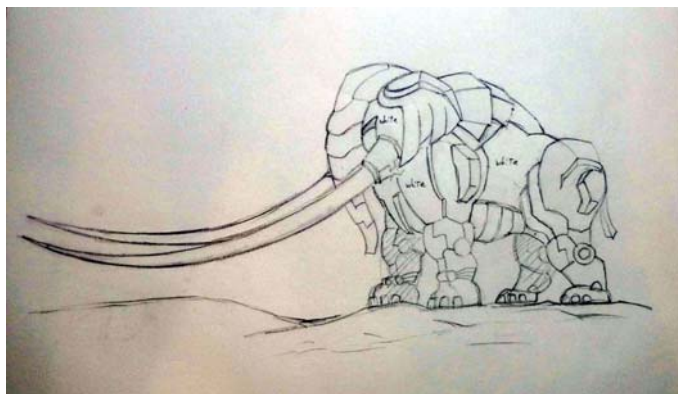


2009年6月2日(火) 横浜港発祥の地「象の鼻地区」に
海を臨んでアートが楽しめる空間

「象の鼻テラス」がオープンしました



「象の鼻テラス」シンボルオブジェ 椿 昇「時をかける象(ペリー)」スケッチ

2009年6月2日(火)、横浜市による開港150周年記念事業の一環で「象の鼻パーク」内に、アート作品の展示や音楽・ダンス等のパフォーマンスを行う多目的スペースとカフェを併設する「象の鼻テラス」がオープンしました。そして、11日(木)にはアーティスト 椿 昇によるシンボルオブジェ「時をかける象(ペリー)」が登場、初お披露目となります。また、テラス内に併設する「象の鼻カフェ」では、さまざまなアートを鑑賞しながら、地元横浜産の新鮮な野菜を使ったフードや、バラエティあふれるドリンクをお楽しみいただけます。

緑豊かな公園で視界いっぱいに広がる海を臨みながら、上質なアートを発見し、触れる一。横浜開港150年という歴史の中で国境を越えた豊かな文化が行き交ったこの地区に、「象の鼻テラス」はアートと食の新たな息吹を吹き込みます。



「象の鼻テラス」外観

【象の鼻テラス】

〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通1丁目

TEL:045-661-0602 FAX:045-661-0603

URL:www.zounohana.com

設計:小泉アトリエ

掲載や取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

象の鼻テラス PR 事務局
担当 今(こん)加奈子、正岡真純
TEL:090-2200-5617 / 090-4070-2295
E-mail:press@plus-sns.com

スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部
担当 四元朝子(よつもと ともこ)、清水さえみ、加藤美穂
TEL:03-3498-5605 FAX:03-3498-7848
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23
E-mail:press@spiral.co.jp URL :www.spiral.co.jp

■設置作品と展開プロジェクト

1)「文化交易 象の鼻150年史」 6月2日(火)～8月19日(水)

象の鼻テラスのオープニングを飾る「文化交易 象の鼻150年史」。象の鼻地区の歴史を、気鋭の建築家、武松幸治(会場構成)と、スイス人のグラフィックデザインユニット「so+ba」(グラフィックデザイン)のアートワークで紹介します。

2)常設作品:シンボルオブジェ「時をかける象(ペリー)」椿 昇

ベネチアビエンナーレ(1993年)やハノーバー万博(2000年)、横浜トリエンナーレ(2001年)などで活躍する京都在住のアーティスト、椿 昇(つばき のぼる)による全長6mの象の立体作品を常設シンボル展示として設置。当施設で展開されるアートの核として位置づけます。

「複雑な世界の状況を打開する答えは、アートには書いていないが、考えるように促す力がある」と語る椿昇の力強いメッセージは、横浜から世界へと発信されていきます。

3)ワークショップ+常設作品:

「アートツールを作ろう」カティア・トゥキアイネン

ワークショップ:2009年5月27日(水)

象の鼻テラス内にあるカフェで使用するツールを、横浜市中区の中山小学校2年生の子供たち53名がアーティストと一緒に作成しました。インストラクターは日本の漫画に影響を受け、愛らしい少女を表情豊かに描くフィンランドのアーティスト、カティア・トゥキアイネンが担当し、カフェで使用する椅子と立体的なアート作品が完成しました。



4)パフォーミングアーツワークショップ 2009年夏、冬予定

横浜市出身のダンサー安藤洋子による、夏・冬2回のワークショップとそこから派生した新作公演を組み合わせた連続企画を行います。(初心者、プロ・セミプロとレベルを分けて実施)

バレエを解体／再構築して新たなダンスの手法を築き、その先駆的な活動でコンテンポラリーダンスを語るにはかかせないドイツの振付家ウィリアム・フォーサイスのもとで活躍する安藤洋子。彼女のテクニックを体験する機会です。



5)展覧会「都市のスペクタクル展(仮称)」2009年10月予定

世界各地の大規模な屋外インスタレーションや参加型のアートフェスティバルを紹介。公共空間でのアートプロジェクトやイベントが、都市再生の重要なコンテンツとして認識されてきた現代における、＜日々の楽しみとしての都市＞を一望します。

6)展覧会「ピクノポリス展 (仮称)」 2009年10月末予定

開放的な「象の鼻パーク」を活用したピクニックイベントを開催します。2002年にピクニック生誕200年を記念して結成し、ピクニックの原形を歴史に探りつつ、建築家、都市計画家、フードコーディネーターなど多彩なクリエイターのコラボレーションによって、都市活用の研究と実践を行う「東京ピクニッククラブ」が登場。テラスとパークがピクニックに彩られます。

7) 展覧会「象の鼻カフェ展」(仮称) 2009年12月予定

象の鼻テラスをアーティスティックなカフェとして演出。愛・地球博のフランス館で巨大な電球を展示し、複数の観客のアクションにより電球のON / OFFのスイッチを入れさせる作品、その名も「ON / OFF」を発表したアーティスト リアン・ブルジェアや、オリジナルテキスタイルで人気のミナ ペルホネンの皆川 明、フードディレクターで、映画「eatrip」を製作した野村友里などが参加予定。

リアン・ブルジェアは、長靴やテーブル、照明など、私たちの生活の中でサイズが固定観念化された物を大きく作り直し、スケール感がずれた世界を表現。近年その活動が注目されています。

8) イベント「ランデヴー プロジェクト@横浜」(仮称) 2010年3月予定

技術者や科学者、職人、アーティストやデザイナーなど、今まで互いに出会うことの少なかった人々の分野を超えた「出会い」から、新しい視点を活かしたモノづくりを——。スパイラルが2000年より提案している「ランデヴー プロジェクト」を横浜でも展開します。

ファッションをはじめとする横浜のものづくり産業と国内外のクリエイターとの協働、または横浜のクリエイターとナショナルブランドの協働によって、「リージョナルプレミアムデザイン」の発信を目指すと同時に、横浜のクリエイティブをローカルから脱した動きに結び付けていきます。

■象の鼻カフェ

現代のアートシーンで活躍するアーティストたちがコスチュームやメニューを提案するArtist Café。皆川 明(ミナ ペルホネン デザイナー)がスタッフのコスチュームを手がけ、「身体にいい食事を楽しく食べる」にこだわる食のクリエイティブがコラボレーションした宙trip(チュートリップ)がスペシャルメニューを担当(期間限定)。ここでしか体験できないアーティスティックなカフェ空間が誕生します。



皆川 明(ミナ ペルホネン デザイナー)

1967年生まれ。1995年に自身のファッションブランド「ミナ」(現ミナ ペルホネン)を設立。国内外の生地産地と連携し、素材開発・技術開発にも精力的に取り組む一方、海外の家具メーカー・テキスタイルメーカーとのコラボレーションやデザイン提供など、幅広く活動する。
2006年「毎日ファッション大賞」(毎日新聞社主催)大賞を受賞。



皆川 明(ミナ ペルホネンデザイナー)による「象の鼻カフェ」メインビジュアル(上)とスタッフコスチュームデザインスケッチ(下)

宙trip (チュートリップ)

フードクリエイティブ・チーム「eatrip」と鎌倉を拠点として活動する「PARADISE ALLEY」によるコラボレーションチーム。

◇eatrip

おいしく、楽しい食で、人と人をつなぐフードクリエイティブ・チーム。レセプションパーティでのケータリングや、食育のメニュー開発を行うほか、テレビ、ラジオ、雑誌などの連載や、専門学校の講師、ワークショップなど幅広く活動中。主宰を務める野村友里が、映画「eatrip」を製作。

◇PARADISE ALLEY

鎌倉市場内にあるブレッドカフェ「PARADISE ALLEY」。天然酵母の焼きたてパンが主役のこのカフェは、「休憩所」としても多くの人に愛されている。主宰の勝見淳平は、イベントやケータリングユニットなども展開し、鎌倉を拠点に多岐に渡り活躍中。



宙tripによるゾウシャワー
©Katsuhiro Ichikawa

ごあいさつ

象の鼻テラスは、横浜開港150周年を記念する象徴的な事業として、レストハウスを国際的な文化観光交流拠点に活用します。

象の鼻パークは横浜発祥の地として、世界の様々な文化と出会い、真に日本の近代化が始まった場所です。現在、そのエッセンスは横浜の創造的な街作りの姿勢に引き継がれ、ここはその源泉となっています。開港150周年という節目に際し、新たな創造と発信を行う「文化交易」の拠点としてここ「象の鼻テラス」で積極的な活動を展開します。

本テラスでは、横浜の観光情報と世界最先端の文化情報を提供するインフォメーション、「象の鼻カフェ」ではアーティストティックなサービスと設えで美味しい心地よい時間を、そして、展示空間では、カフェと有機的に結束し、上質で創造性溢れる独自性の高い多様なプログラムと空間を提供します。

歴史を踏まえ、世界の最先端の芸術文化と連携し、横浜の創造的な活動とつながりを持ちながら新しい文化を創造する事を目指します。

オープニング展は「開国博Y150」と連携しながら、「文化交易 象の鼻150年史」で幕を開けます。開港から現在に至る、象の鼻地区の土木遺構と街の変遷にフォーカスしながら、横浜の文化や発展に寄与した人物の功績にも注目する内容としました。多くのアーティスト、クリエイターの創造力で、横浜の過去と現在を先鋭的な映像とグラフィックで総合的に表現しました。

また、第1回横浜トリエンナーレに出展し国際的に活躍するアーティスト、椿昇氏による、ここ象の鼻テラスのマスコット「時をかける象(ペリー)」も登場します。象の鼻カフェで使用する家具に施されたユニークな絵は、開館前にアートプロジェクトとして横浜の子供達と制作したものです。

象の鼻テラスの活動を通じて、未来の横浜、日本を担う子供達に託す、より良き文化を創造し、世界に発信していきます。

2009年5月25日
アートディレクター
岡田 勉